

令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじん げきだんのぼら		団体ウェブサイトURL
	一般社団法人 劇団野ばら		http://gekidan-nobara.com
代表者職・氏名	代表理事 北川明光		
制作団体所在地	〒 203-0012	最寄り駅(バス停)	西武池袋線ひばりヶ丘駅
	東京都東久留米市浅間町2-9-8		
電話番号	042-439-9778		
ふりがな 公演団体名	いっばんしゃだんほうじん げきだんのぼら		団体ウェブサイトURL
	一般社団法人 劇団野ばら		http://gekidan-nobara.com
代表者職・氏名	代表理事 北川明光		
公演団体所在地	〒 203-0012	最寄り駅(バス停)	西武池袋線ひばりヶ丘駅
	東京都東久留米市浅間町2-9-8		
制作団体 設立年月	平成28年4月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事 北川明光 理事 保坂 淳 理事 大野俊郎		構成 10人+研究生2人 演技部6人 演出部1人 制作部2人 事務局1人 オーデション後、研究生として入団
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当を置く	本事業担当者名	北川明光・山形重和
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	山形重和

<p>制作団体沿革</p>	<p>一般社団法人劇団野ばらの前進劇団野ばらは創作劇を作り続け全国の学校、委員会主催の芸術鑑賞会で高い評価をいただき実績を続けてまいりました。 2016年4月代表に北川明光が就任し、一般社団法人劇団野ばらとして現在に至っております。 劇団野ばら初期作品「ぞうとじゃがいも」から「小さな虫の大冒険」「三羽ガラス」「ともだち(厚生省児童福祉審議会推薦作品)」「サルと少年」「虫たちのファンタジー」「アリスがくれた不思議な時間(厚生省児童福祉審議会推薦作品)」等、全ての作品は「公益社団法人日本児童青少年演劇協会」主催の地方巡回公演に採択されております。 申請作品「山の風から聞いた話」は宮澤賢治の名作童話「どんぐりと山猫」「セロ弾きのゴーシュ」を構成劇として取り組み各方面より高い評価を頂きました。初めての名作童話の上演は、今後の劇団の方向性を模索する上で貴重な公演で、役者にとっても自信に繋がる内容となっている。</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>上演作品「あしたあさってしあさって」 全校小学校公演 令和4年度5月5公演6月12公演8月～9月12公演10月14公演(予定)、11月15公演(予定) 58日 令和3年度5月7公演、6月10公演、9月9公演、10月20公演、11月20公演 66日 令和2年度5月5公演、6月7公演、9月5公演、10月18公演、11月19公演 54日 平成31年、令和1年度6月10公演8～9月11公演10月20公演11月20公演12月11公演 72日 平 成30年度5月5公演、6月11公演、8～9月20公演、10月19公演、11月21公演、12月5公演 81日</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/>北海道立網走養護学校・道立紋別養護学校 <input checked="" type="checkbox"/>石川県立七尾養護学校・福井県立福井養護学校 <input type="checkbox"/>東京都立田無特別支援学校 <input checked="" type="checkbox"/>大分県立中津支援学校・大分県立別府支援学校・大分県日出支援学校 <input checked="" type="checkbox"/>佐賀大学附属特別支援学校・佐賀県立中原鳥栖田代支援学校 </p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>無</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人 劇団野ばら 】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生				
企画名	【宮澤賢治名作童話】野ばら名作劇場「山の風から聞いた話」				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「山の風から聞いた話」 原作 宮澤賢治 構成 北川明光 演出 笠本康一 監修 香川良成 音楽 田島美津子 付 飯塚健祐				振
	公演時間		90	分	
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否		該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある 場合	権利者名		許諾確認状況	
演目概要+A20:B25	「どんぐりと山猫」おかしなハガキが一郎の家にきました。めんどろなさいばんをしますからおいでんさい、やま猫がどんぐりたちがだれが一番かわいいがあらそっているのです。そこでさいばんが始まります。…… 「セロ弾きのゴーシュ」ゴーシュは楽団のセロを弾く係でした。第六こうきょうの練習をしていましたが、突然、がくちょうが怒鳴りました。ゴーシュのセロが遅れたのです。なんども練習してもうまくいきません。動物たちがゴーシュを励ますが……				
演目選択理由	宮澤賢治の本を読むと豊かな時x畏敬が文字から物語になって浮かんできます。 今回の試みは、珠玉の童話をゆるがせにしないで、いろいろな表現を伴って読んでみるという試みです。この劇を観た後、子供たちが宮澤賢治に限らず、素敵な絵本や童話をいろいろな表現を伴って読んでみるという試みを大いにやってほしいと願っています。子供達の表現力工場のひとつのヒント、きっかけになるので、この演目を選択しました。				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	劇の冒頭と最後にワークショップ参加の皆さんに劇中の「どっどど、どどうど、……」群読で劇中の風になりきって、自分なりの風を表現していただきます。その他、複数のグループに分かれて風になりきり表現してもらいます。終演後、児童の皆さんと宮澤賢治の「どんぐりと山猫」「セロ弾きのゴーシュ」について、劇についての感想、質問を劇団員達と話し合い、交流をします。特に風になりきって群読して劇中に参加した生徒の皆さんに、劇の楽しさを感じた印象を述べてほしい。				
出演者	保坂 淳・平田敦史・高崎史人・吉川有美・平田美穂・遠藤 仁・福島光夫				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者： 7 名	運搬	積載量： 2 t		
	スタッフ： 3 名		車 長： 7 m		
	合 計： 10 名		台 数： 1 台		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間			3時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	18時	18時～21時	13時30分～15時	無し	15時～17時	17時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
					19日	
	11月	12月	1月	計	45日	
	20日	6日				

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	20～30人
		鑑賞人数目安	300人以内

公演に係るビジュアル
イメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)



舞台に必要な面積 間口約7.2m×奥行約8.1m

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

【公演団体名 一般社団法人 劇団野ばら 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	20～30人
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p> 主指導者かめやまゆたか／補助者村石陽子/補助者北川明光/補助者保坂 淳/ 他 1、 子どもたちの心と身体をほぐしながら、声の表情を豊かに 〈15分〉 ① 心と身体とほぐすための ウォーミングアップをたっぷりと ② 声を豊かに、そして大きく 2、 朗読劇についての説明等 〈15分〉 ① ことばのキャッチボール (遠く離れて) ② 声の表現の工夫 ③ 朗読劇の手法 (丸イス等の使い方) 3、 『どんぐりと山猫』と『セロ弾きのゴーシュ』(かめやまゆたかワークショップ構成・台本)2グループに分か れての練習と発表 休憩10分の後、50分) ※子どもたちには、宮澤賢治の世界を「体感」してもらおうと共に、発表することにより、その「成就感」を 与える。 4、 公演本番では、2作品の公演の前に、それぞれグループの発表を行う。 上手・下手に約15人ずつ並び、朗読劇で作品の導入部分の発表を行う。 </p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p> 長年、小学校を中心に、子どもたちや教師に朗読劇を指導してきた、かめやまさんを講師に迎える。 かめやまさんの指導は、教師のみならず子どもたちにも圧倒的な評価を得てきた。 かめやまさんの指導を得て、奥深い宮澤賢治作品、その代表作ともいえる『どんぐりと山猫』と『セロ弾き のゴーシュ』の世界を、朗読劇を通して、自分を自分らしく表現し、作品の世界を体感してもらい、公演本 番の作品理解に繋げたい。 </p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p> 〈朗読劇とは〉 朗読は声という身体の一部だけを使うが、それを朗読劇にすることで身体全体を使うことになる。物語に 登場する役柄になって、ことばで表現するのが朗読劇である。 単に朗読という形だけではつかみきれない登場人物の気持ちや変化を身体全体の表現を通すことで、イ メージしていたものが明確になり、それによって読みそのものが深化するという、朗読劇には国語教材とし ても深い教育効果がある。 </p>		